

# 「情報処理学会論文誌：デジタルコンテンツ」の 編集にあたって

情報処理学会論文誌：デジタルコンテンツ編集委員会

## Editorial Preface of the IPSJ Transactions on Digital Content

IPSJ Transactions on Digital Content Editorial Board

### 1. 本号の編集について

本論文誌の特徴の1つは、投稿に先立って研究会で発表していただく点にあります。論文化前の研究発表時に広い観点から多様なコメントを得ることで、早期の論文化、焦点の明確な論文化などにつながるものと期待しています。第7号となる本号に採録された論文は、次の2回もしくはそれ以前の研究会主催イベントに発表された研究に基づくものです。

2015年7月にはDCC研究会が共催するDICOMO2015およびDICOMO2015併設デジタルコンテンツ制作発表会が岩手県の安比高原にて開催されました。第11回DCC研究会は2015年11月9日に多摩美術大学にて開催されました。

本号の投稿は2015年12月から2016年1月にかけて募集され、12件の投稿がありました。厳正な査読と3回の編集委員会における審議を経て、推薦論文1件を含む次の5件を採録することができました。

「凹凸情報をもつ写真をキャンバスとした立体スケッチシステム」は、タブレットPCに深度付きカメラを搭載し、撮影した画像の上にスケッチを行うシステムを提案しています。手描きのスケッチに3次元構造を組み合わせ、その構造を把握したり、奥行きをついたスケッチの世界をウォークスルーしたりできます。

「人型入力デバイスを利用した災害救護のための個別学習支援システム」は、災害救護を個人で手軽に学習・訓練するために、人型入力デバイス「QUMARION」を救護対象者の代わりとして使用し、その体位管理を訓練できるシステムを提案しています。

「視触覚融合コンテンツにおける複数の視覚刺激と振動刺激によるクロスモーダル知覚に関する検討」は、視覚刺

激と触覚刺激の刺激点の個数が異なる場合のクロスモーダル知覚を検討しています。触覚位置や点数が視覚刺激提示の影響を受けることを示しています。

「個人認証を目的とした視線の軌跡情報からの特徴抽出」は、人が意図的に視線で描いた軌跡を用いた個人認証方式を提案しています。視線の軌跡情報から個人の判別が可能かどうかを1対Nの認証実験で検討し、高精度で判別できることを示しています。

「映像の類似性を利用したワイヤレスマルチビュービデオストリーミング」は、複数の撮影機器の映像を同時に視聴者に提供するマルチビュービデオにおいて、映像品質を維持しつつ、撮影部をデータレートが低い無線通信で実現する仕組みを提案しています。

今後も本論文誌に多くの有益な論文が掲載され、この新しい分野の形成・発展の一助となることを期待します。ご関心をお持ちの皆様には、以下の編集の趣旨、編集方針、投稿手続き、今後の発行計画を読まれ、投稿もご検討くださいますよう、よろしくお願いいたします。

### 2. 編集の趣旨

モバイル機器の急速な普及、アナログテレビ放送からデジタルテレビ放送への移行などを背景に、コンテンツのデジタル化が広がっています。前世紀の産業成長時代には、漫画、アニメ、ゲームなどのコンテンツ産業が、政策的な後押しが少ない中で予想外に骨太に成長し、アキバやオタクなどともいわれる特異なキャラクター、コンテンツ文化が国内において形成されました。その後徐々に世界に誇る日本文化の1つとして各国に浸透するに至り、現状では、我が国はコンテンツ産業において世界に一歩先んじた独自の優位な地位にあります。携帯電話の文化においても「ガラパゴス」といわれる独自の進化形態が揶揄され、端末の

世界競争力がないことは残念な事実ではありますが、一方で着メロ、着うた、ネット小説やケータイブログなどのモバイルコンテンツ産業が大きく進化していることの反面でもあります。いずれにせよ我が国のデジタルコンテンツ産業は独自の成長と進化を遂げ、今でも新たな方向に向けて進みつつあります。

一般にデジタルコンテンツとは、映像、ホームページ、ゲーム、音声、音楽、テキスト、コミック、アニメ、写真、アート、CG、キャラクターなどのことをいいますが、前述のとおり、現時点では国内独自の発展をベースにした産業の成長が見込まれます。その一方、アニメ、漫画、音楽、映像などのコンテンツ制作現場の低賃金、重労働という劣悪な労働環境や著作権の管理をはじめとする社会的問題が重要視されるようになっていきます。国境のないインターネット社会、コンシューマ化が進むインターネット社会において利用環境は絶えず変化し、さまざまな複雑な問題が生じています。デジタルコンテンツの制作、流通、利用において新たな技術や新たなルールが必要とされています。

本論文誌では、このようなデジタルコンテンツの制作、流通、利活用を促進し、健全な社会利用を推進するために、デジタルコンテンツクリエイターを支援するための制作技術、管理技術およびそれに関わる利用技術に関する研究を産学問わず広く対象とするとともに、コンテンツ自体のアート・エンターテインメント性の観点からの表現技術も含め、デジタルコンテンツに関する技術者の相互情報交換の場を提供することを目指します。

対象とする分野は、研究者、開発者だけでなく、コンテンツ制作者、芸術関係者にも興味ある内容となることが予想され、本論文誌を通して学会活動活性化につなげます。

### 3. 編集方針

本論文誌は、デジタルコンテンツクリエイション (DCC) 研究会における発表と論文誌投稿が密接にリンクされている点に特徴があります。原則として、DCC 研究会が主催する研究発表会、シンポジウム、展示会などのイベントで発表された論文が、本論文誌への投稿対象となります。

本論文誌に掲載する論文は、研究論文、産業論文、作品論文の3種類とします。どの種類であるかは、著者自身の指定によって決まります。展覧会などで発表された作品についても、当該作品領域における十分な説明を加えた論文として投稿されることを期待しています。

#### 3.1 対象分野

主な対象分野は以下のとおりです。

- コンピュータアニメーションコンテンツ、CG コンテンツ、3D コンテンツ
- インタラクティブデザイン、Web デザイン、広告
- デジタル漫画、ホームページ、ケータイ小説、ネット

ゲーム、電子書籍

- コンテンツビジネス論、コンテンツビジネス戦略、コンテンツビジネス経済/経営、コンテンツビジネスマーケティング
- デジタルコンテンツ制作、コンテンツ流通、コンテンツ利活用、コンテンツ管理、コンテンツ教育
- CGM, UGC, MAD (ムービー)
- メディアアート、インタラクティブアート、インタラクティブメディア
- デジタルコンテンツ符号化、放送型情報サービス、マルチメディア情報配信
- コンテンツアライアンス、コンテンツ著作権管理、電子透かし、サイトライセンス、Pay-per-view

#### 3.2 論文の形式

本論文誌に掲載する論文は、研究論文、産業論文、作品論文の3種類とします。

#### 3.3 査読基準

査読基準につきましては、基幹論文誌編集委員会の「論文査読の手引き」(2012年4月2日改訂版)に原則的に従ったものとし、論文の信頼性、論文の構成と読みやすさに加え、以下の視点をより重視することで、本論文誌の独自性を出します。

- (1) 研究論文は、デジタルコンテンツに関係する一般的な学術論文で、技術的・概念的な新規性、もしくは有用性について評価します。
- (2) 産業論文は、デジタルコンテンツ産業に影響を与える論文で、市場への影響度、もしくは有用性について評価します。
- (3) 作品論文は、思想や感情を創作的に表現した作品とその作品の持つ背景説明を加えた論文で、作品に芸術性、娯楽性、社会的受容性のいずれかを有しており、それについて背景を含む作品の説明および著者の主張が適切に記述されているかを評価します。

### 4. 投稿手続き

- (1) 論文投稿を希望する方は、原則として、まず DCC 研究会が主催する研究発表会、シンポジウム、展示会などのイベントで発表を行ってください。また、投稿論文の第一著者は原則として DCC 研究会の登録会員である必要があります。
- (2) 「情報処理学会論文誌 (ジャーナル)」の論文投稿形式に従って6ページ以上の投稿論文原稿を作成してください。
- (3) 投稿締切日までに、本論文誌投稿論文原稿を PDF 形式で各号の担当委員に電子メールで送ってください。論文の種別指定 (研究論文、産業論文、作品論文) お

よび研究会での発表年月を明記してください。

論文提出先：

号担当委員 (trans-dcon-editors@ipsj.or.jp)

- (4) 本論文誌編集委員会により、投稿論文の査読が行われ、採録/不採録/条件付き採録の判定結果が通知されます。
- (5) 条件付き採録の場合は、本論文誌編集委員会の指定する締切日までに、採録条件に従って論文を修正し、修正原稿および修正内容、修正箇所を明記した回答書を提出してください。
- (6) 本論文誌編集委員会により、再投稿論文の査読が行われ、本論文誌への採録/不採録が判断されます。
- (7) 査読に動画や音声などが必要な場合には、DVD 1 枚に記録し、下記の宛先に 3 部送付してください。再生時間は 10 分以内とし、動画のファイルフォーマットは MP4 形式で H.264 コーデックを利用してください。音声のファイルフォーマットは MP3 形式を利用してください。上記 DVD に参考として追加のファイルを保存してもかまいませんが、審査対象ではないため査読者が実際に参照するかは分かりません。なお、提出されたメディアは返却いたしません。

DVD 送付先：号担当委員

- (8) 論文の投稿には下記の投稿フォームを利用してください。

– FAX 番号：

– e-mail：

11. 備考：

---

---

## 5. 今後の発行計画

論文募集は原則として年 2 回行います。

■第 8 号 (平成 29 年 2 月発行) 論文募集終了

■第 9 号 (平成 29 年 8 月発行) 論文募集平成 29 年 1 月

---

---

「情報処理学会論文誌：デジタルコンテンツ」(DCCON)  
投稿フォーム

論文提出先：trans-dcon-editors@ipsj.or.jp

1. 論文名：
2. 著者名 (所属)：
3. 論文種別：研究論文/産業論文/作品論文 【不要なものを削除してください】
4. 論文概要：
5. キーワード (5 個程度)：
6. DCC 研究会での発表年月： 年 月
7. 第一著者の登録状況：DCC 研究会登録会員です/  
DCC 研究会登録会員ではないため、登録手続きを行います。 【不要なものを削除してください】
8. DVD の有無：あり/なし 【不要なものを削除してください】
9. 第三者の著作権等：侵害していない/侵害している  
【不要なものを削除してください】
10. 連絡先
  - 連絡者名：
  - 連絡者住所：
  - 電話番号：